

第2回丹波新地域ビジョン検討委員会 記録

1 開催日時 令和2年12月3日(木) 18:00～20:00

2 場所 柏原総合庁舎 柏原職員福利センター 1階会議室

3 出席者

委員(五十音順)

安達委員、足立委員、上甫木委員、角野委員長、構井委員、岸委員、清水(夏)副委員長、清水(徳)委員、鈴木委員、瀧山委員、竹見委員、土性委員、中川委員、

※欠席委員：谷水委員、宮垣委員

事務局

丹波県民局：柳瀬県民交流室次長、西原班長、竹村
本庁ビジョン課：吉住主幹

4 内容

(1) 開会

- ・角野委員長あいさつ
- ・委員自己紹介(前回欠席委員を中心に)

(2) 報告事項

- ・【資料1】により、将来構想試案骨子案を事務局から説明(吉住主幹)
- ・【資料2】により、丹波地域ビジョンに係る指標を事務局から説明(西原班長)
- ・【資料3】により、県民との意見交換の実施状況を事務局から説明(西原班長)

(3) 協議事項

- ・【資料4】及び冊子「成長しつづける丹波の夢ビジョン改訂版 みんなで丹波の森」により事務局から説明後、今後の方向性を議論

5 意見

資料1 将来構想試案骨子案

〔委員〕

- ・希望のあるシナリオが描かれている。誰一人取り残さないということを考えると、格差が出たり、取り残される人がでてくるのではないかと心配する。ビジョンは作るだけではなくて実現させるためのものだという事で結ばれているのであ

れば、もうちょっと踏み込んだシナリオが必要なのではないか。夢物語のようなシナリオでなく、支援策についても現実味のあるものにしてもらいたい。特に、課題が大きなシナリオについては懸念することが多い。

〔事務局〕

- ・研究会でも、そこが弱いという意見が出た。このままでいいとか、ゆるやかに生きてきたい、という意見もある。今後、充実させていきたい。

〔委員〕

- ・総花的であり、他の県で検討した場合にも同じようなものが出てくるのではないかと思う。兵庫県としては、どこに独自性を見出すのか。

〔事務局〕

- ・社会の大きな潮流の中で、どのような未来が描けるかということを研究会では議論した。どのように県の独自性を出すかは課題だと認識しているが、全県と地域の二本立てでいくので、まさに、この地域ビジョンで独自性を出していける。

〔委員〕

- ・地域ビジョンで独自性を出していくのであれば、そういったこと、地域ビジョンとの関係性を明確に打ち出してもらいたい。

〔角野委員長〕

- ・5つの柱と34のシナリオでいくというのは、数は決まっているか。
- ・将来構想試案のスケジュールは。

〔事務局〕

- ・議論を整理するとすればこの5つとなっただけで、特段数は決まっていない。流動的に考え、今後変わる可能性もある。
- ・今月と来月1月に研究会で議論をして完成させる予定。

資料2 丹波地域ビジョンに係る指標

〔委員〕

- ・アウトプット、アウトカム、因果関係を現したロジックを示したものはないか。
- ・最上位の目標や中間目標など関係性はないのか。

〔角野委員長〕

- ・今あるビジョン「みんなで丹波の森」で掲げられている目標が、アウトカム指標でも分類されている5つの将来像である。それを達成するための具体的な指標として、いくつかの主観指標・客観指標が挙げられている。
- ・アウトプット指標は、その5つの将来像を達成するために活動しているビジョン委員の活動グループの、活動の成果を表したもの。最終的な目標としては、この5つの将来像をどのように達成していくのか、というところになる。

〔委員〕

- ・アウトプット・アウトカムや、主観・客観で分けてまとめてみるなど、整理しな

いといけない。数だけでは、傾向はわからないところや把握できないところもある。

〔委員〕

- ・指標が重複していたり、各指標どうして相乗効果を受けるもの、トレードオフの関係にあるものなど、単独の動きだけでは見られないものもある。
- ・各指標それぞれの関係性を精査しなければいけないのではないか。
- ・単にマルかバツだけで評価されるものではないのではないか。

〔角野委員長〕

- ・10年前につくった5つの将来像と、その達成度を指標で測る形が現在まで続いている。どういう形がいいのか、今後の議論として欲しい。

資料3 県民との意見交換の実施状況

〔委員〕

- ・ヒアリング内容を、5つの将来像に関連付けて、定性的な評価としてまとめてみてはどうか。
- ・ヒアリングの内容を整理してみれば、5つの将来像以外の視点も含まれていると思う。KJ法などを使いそれを整理してみることで、今後の方向性が見えやすくなるのではないか。

〔委員〕

- ・高齢者の意見もいれてほしい。

〔委員〕

- ・デザイン会議の参加メンバーに高校生はいないのか。

〔事務局〕

- ・20歳から35歳までを対象としている。

〔委員〕

- ・デザイン会議で悪い未来として示された、「アイデンティティがなくなる」「地球を捨てる」という発想はなかった。勉強になった。私たちが解決しなければならない課題が、この会議で示されているように感じる。

今後の進め方について協議

〔角野委員長〕

- ・指標の結果をどう使っていくか、分析していくか、というものがないと読み込みづらい。
- ・どういう柱、課題があるのかを議論していきたい。
- ・課題をグルーピングして整理してもらえるとよい。一方で地域の強みから見ると違う柱も出てくる可能性もある。そのように整理されていれば、具体的・建設的な議論ができる。
- ・生のデータで議論するのは難しい。ここの議論に使える形や組み立て方に整理し

て欲しい。

- ・今後分科会で議論を深めていくということだが、どのような分けかたで進めるのか。

〔事務局〕

- ・初めは、今ある丹波の5つ将来像をもとに分科会を作ってみる。その5つを受け継いでくのがよいのか、適切であるのかを、各分科会で議論していく。

〔委員〕

- ・議論する内容や情報の整理ができていない印象。
- ・資料4のテーマの整理についても、将来構想試案の未来シナリオにあてはめる形で丹波の5つの将来像を整理しているが、逆の方がよいのでは。丹波ビジョンを考えるのであれば、今現在、未来シナリオの中でできているところとそうでないところを整理することで、分かりやすくなると思う。
- ・現在のビジョンには、その実現に向けた取組の方向が書いてある。それを元に整理しないと、今後同じ5つの柱でやるのかどうかも見えにくい。
- ・現在、小規模集落、地域コミュニティの再生の調査をしている。山林・自然インフラの保全と、生業や6次産業化の活性化は同じ地域活動のグループでやっている。それぞれの部署で取組みはしているが、連携してやっていかないといけない。
- ・「丹波の森」に標榜されるように、丹波は自然環境が一番の売り。魅力やブランドがいっぱいありすぎるという話もあるが、それは強み。そこを支える人材が必要。
- ・少子高齢化の問題。外部人材として移住してきてもらうことも出てくるかもしれない。
- ・もともとある丹波の魅力をどう活かしていくのか、というところが重要な課題で、考えていかないといけない。

〔委員〕

- ・事前に資料をデータでも送って欲しい。データで送ってもらえればPCに保存していつでも見られるし、紙の資料を毎回持参するのも大変な人もいると思う。
- ・具体的に絞った各論でテーマ設定をしてもらった方がいい。全体のことを話してもぼやけてしまう。
- ・移住に関しての課題としては、流動化している空き家が少ない。移住して入ってくるときに、地域のルールを知ることができないなどの課題がある。

〔委員〕

- ・何を検討するのが把握できないままこの場に来た。新たに何かを考えていくのか。資料に対して何か意見をいうのか。整理ができていない。
- ・将来の課題について言えば、先日自分が参加した「ビジョンを語る会」でも話をしたが、人の問題。人口減少や少子高齢化が進む中、人がいないと何もできない。丹波から人が流出しないように、また帰ってきてもらえるようにしなければならない。そのためには人材が一番重要である。

〔委員〕

- ・情報がありすぎて、どれを精査して、どこを向いて良いのかが分かりにくい。

- ・今ある丹波の魅力に肉付けしていくのが簡単ではないか。
- ・ざっくばらんにグループワークをしながら、丹波の柱の方向性を考えていければ。
- ・将来については、例えば大きな商業施設ができて、人が外に出ていっても新たに入ってくる人もいて、そこで働き口もある、といった未来を、希望だが描いている。

〔委員〕

- ・兵庫県は日本の縮図。地域の違いが大きい。その意味で、丹波は必ずしも全県と同じ切り口では語れない。丹波の新ビジョンであっていい。兵庫県とニアリーであり、違っていい。
- ・丹波は森林面積が大きい。森林としての資源は、活用の仕方によっては丹波の大きな活力になる。林産資源として見直すべき。
- ・将来ビジョンを見ていくにあたっては、人間が変わっていくことを考えて進めていかないといけない。そうしなければビジョンにそぐう形で進めることができなくなる。
- ・未来シナリオの中で「次代への責任」の項目で学校のことが書かれているが、学校だけの教育ではダメ。社会をあげていろんな形で、生涯教育の中で作り上げていくイメージでないと、歩みを進めるのは難しい。イメージ、意識、いろんな機会や形で、勉強しあうべき。そのようなことをリードできるような丹波ビジョンを。

〔委員〕

- ・将来構想試案骨子案の未来シナリオについて、丹波に置き換えるとどうか、ということを考えていた。そこに、各所へのヒアリングの意見など多くの情報が今日新たに出てきたので混乱している。まずは一旦、資料の整理をすべき。
- ・骨子案の中で考えた丹波、ヒアリング調査でわかった現状や課題、このあたりを整理していかないと、柱立ても難しい。
- ・未来シナリオの中でも、例えばデジタル自治体は、30年後当にはたり前。当然必要になってくる。
- ・今の丹波の5本の柱に置き換えられないものも必ず出てくる。新しい柱を立てる必要がある。
- ・一旦は現状を押さえることが一番。

〔委員〕

- ・一番課題と考えるのは、誰のためのビジョンか、というのが分からないところ。
- ・アウトプット指標などは、ビジョン委員の活動しか見ていない。市や県もいろいろな事業をやっている。ビジョン委員会のためのビジョンになっていないか。
- ・ビジョンと、行政などの施策のミスマッチがある。ビジョンと施策の関連性が不明瞭のままやってきているのではないか。その辺りを意識しているビジョンなのかが疑問。今回のビジョンでは、そこを意識しながら考えていきたい。
- ・行政でも事業をやっているはず。まず県民局内の各部署にヒアリングをして課題を抽出し、まとめてはどうか。
- ・今後は、間違いなく農村の価値が向上する。どういう人、団体、企業に移住してもらうか。何をしてもらうかが大事。
- ・価値や魅力と同時に課題もある。課題が多岐に渡り複雑化している。行政だけでは課題解決できない。民間、個人、地域団体が課題解決にどう向き合うか、どの

ように参画してもらうか、その体制整備を進める必要がある。

- ・市との共生も含めた行政間のビジョンの整理と、行政だけでは手に負えないソーシャルビジネスの部分をもっと推進していく必要がある。

〔委員〕

- ・各地域にある色々な課題に対してどう取り組むかがビジョンではないか。
- ・農村が注目を浴びていると言われるが、農村が抱える問題は大きい。高齢化や耕作放棄地の問題もある。
- ・様々な問題がある中で、環境保全のためなら動くが、農地保全のためなら動けないと言われたこともある。このような問題をどのように捉えていくかも考えていくことができればと思っている。

〔委員〕

- ・将来構想試案骨子案の未来シナリオに、現場の暮らしの中での課題解決が見えてこない。このあとビジョンをつくっていく中で、検討・反映していただければ。
- ・元々丹波の魅力は何か、というところを考えないといけない。自然や農村コミュニティに支えられてきた部分もあると思う。
- ・自治会や自治協議会といった地縁型組織の話を知っていると、非常に切迫した危機感を持っているところがたくさんある。そこをしっかりと議論をしていかないといけない。そのようなところが崩れてしまうと、丹波の魅力そのものの根底が崩れてしまうのではないか。地域のコミュニティ、それを支える人材、ノウハウの伝承が必要である。

〔委員〕

- ・ビジョンは明るいイメージ。将来構想試案骨子案は夢がないといけない。しかし夢ばかりでもいけない。8050 問題などもあるが認識できているか。
- ・誰のためのビジョンなのか、という軸をしっかりと上で議論したい。
- ・骨子案の説明は、もっとゆっくりと話していただけたら良かった。理解できないまま進んでいったところがある。会議のあり方を考えていただきたい。

〔委員〕

- ・丹波地域ビジョン指標について、どの部分に特に危機感を感じているか。全体的なトレンドの説明に終わっていたのが引っかかっている。
- ・指標も10年間で、項目ごとの濃度が変わってきているはず。今現在と比較して、優先度が変わってきているところもある。このポイントは要らない、対処できない、というものもあるはず。
- ・今は空き家も資源だが、それも人がどんどんいなくなって空き家が増えすぎれば価値がなくなる。売れる空き家も売れなくなる。
- ・時代によって優先度が変わっていく、ということは考えておかないといけない。
- ・上向きの項目を伸ばすという積み上げ型の議論も必要だが、ここはもう手を伸ばせない、という引き算の考え方で見ていくことも、ビジョンを考える中で重要ではないか。

〔委員〕

- ・現在のビジョンの5つの柱のうち、何を引き継いで、何を「新」にするのか。
- ・「新」ビジョンなので、新しい部分は必要。価値観も変わっているし、その変化

も早くなっている。新しい柱も必要。

- ・先人の取組みを評価する意味においても、ある程度引き継ぐ部分はあってもよい。
- ・指標の評価で10年前との比較ができる。指標それ自体が、取捨選択の指標となりうる。
- ・関連するプレイヤー別に整理するのも、1つのあり方ではないか。
- ・年代別、状況別、子育て中、身体に不安を抱えている、などターゲット別の目標や将来像を整理していくことも、ヒントになるのではないか。

〔委員〕

- ・指標の評価は、10年間続けてきたものなので、これをしっかりと分析してもらいたい。
- ・アウトプット、アウトカムは書いてあるが、インプットが書いていない。何をやったからこういう成果が出た、というのが見えない。何が良かったのかも整理すべき。
- ・ビジョンのシナリオは過去・現在・未来とつながりがあるもの。現行の地域ビジョンの5つの軸を軌道修正する形で検討していけばよいのでは。

〔角野委員長〕

- ・社会潮流が変わる中で、今の5つの柱を引き継ぐべきか。それを評価するための情報を事務局で集めている。ただ、今のところ生のデータで次々くるので、どう読めばいいのかわからない。
- ・社会の大きな流れとして、全県のビジョンを尊重したい。そういう社会全体の動きが丹波地域にどう影響するのか。評価はしていく必要がある。
- ・それを踏まえた上で、今ある5つの柱が妥当かどうか、次回以降議論すべき。
- ・それぞれが活動している現場で考えていることや、両市の総合計画などとの関係性なども整理すべき。
- ・今後は分科会形式で進めていくこととする。事務局から提案があったように、現在の5つの柱をもとに分科会を分け、それが妥当かどうか議論するというのが、現在の柱の検証の意味合いにもなるのではないか。

〔委員〕

- ・原則論の話になるが、丹波地域ビジョンの話をするときは10年という区切りで考えている感じだが、全県ビジョンは30年後の2050年を目標に話をしている。丹波地域ビジョンは、全県と同様に30年後を考えるのか。

〔事務局〕

- ・地域ビジョンは全県ビジョンの一部であるので、全県同様に30年後の2050年を視野に入れた形での検討となる。
- ・分科会については、5つの将来像をもとに立ち上げる予定。それぞれの得意分野をご参考にメンバー分けをする。複数の分科会に参加いただく方も出てくるが、ご協力をお願いしたい。

6 閉 会